**参考資料**

**日本視覚障害者団体連合**

**新型コロナウイルス　ホットライン**

**取りまとめ資料**

**集計期間：令和２年３月２３日～６月２６日**

**意見数：１４６件（複数回答あり）**

**１．日常生活**

　１－１　マスク・消毒用アルコールが手に入らない（７件）

　１－１－１　販売情報が入手できない（４件）

* 消毒用アルコールが見つかりません。１番困っているのはマスクです。マスクは中にティッシュを詰めて使い回しています。できればスーパーに行った時にすぐマスクが手に入ればいいのですが、なかなか手に入れることはできません。ドラッグストアでも同じです。今は使い古しているマスクと僅かな未使用マスクしか手元になく、この先まだまだ続くのかなぁと思うと恐怖感でいっぱいです。
* 薬局の店頭や店内で、マスクの入荷状況が表示してあるのかどうかが分からない。そのため、入荷状況を店員に聞きたいけど、店員には聞きづらい。普段からよく利用している店では、店員との関係が良好のため取り置きをしてくれ、大変ありがたい。
* 今は、スーパーやドラッグストアでも、ようやく１家族１個の限定ながら、トイレットペーパーやティッシュも買えますが、２週間前までは、開店前に２０人が並び、開店と同時に棚から消えていた。弱視の私は、妻の車で５～６軒回りましたが、出遅れて買えなかった。私の場合は家族の車で駆け巡れましたが、視覚障害者の場合は店舗を探し回ることはできない。

　１－１－２　店頭に並べない（同行援護が頼めない）（３件）

* お店でマスクを購入したいが、どこに置いてあるかわからず、迷っている間になくなってしまい、購入できなかったという方もいました。マスクを手作りで作っている人もいるようですが、視覚障害者の方にとってはそれも難しいと思います。並んでいる人は、開店１時間以上前から並んでいるという話を聞き、ガイドヘルパーを頼むのも困るそうです。
* マスクを購入するために同行援護を使おうとしても、長時間並ばなければならないため、事業所が受けてくれない。ただでさえ少ない同行援護の持ち時間をマスクを買うために使いたくない。また、同行援護をお願いするためには、マスクを着用していないとガイドヘルパーに来てもらえない。

　１－２　外に出られない・外出が困難になった（４件）

* 体育館で週に何度か筋トレをしていますが、その体育館が閉鎖になりました。できれば、条件を決めたり、しっかりと管理をして、衛生が保たれ、人との接触のない場合は開放してほしい。
* デイサービスが休止となり外出の機会がなくなり、困っている仲間がいます。特に、一人暮らしの人だと、認知症等の進行を早めないのか、閉じこもりから抜け出しつつある人がまた孤立してしまう可能性があるのではないかと心配しています。
* 福祉有償運送がコロナの影響で停止してしまい、外出できず困っています。
* 今までは一般の方の声掛けを頼りに一人で外出ができていたが、コロナ問題があり、ソーシャルディスタンスが叫ばれるようになってから、声をかけてくれるかけてもらうことが非常に少なくなり、生活しづらくなってしまった。

　１－３　日常の買い物ができない（２件）

* ネット通販を利用していたが、自分で注文や送金処理ができないので、これまではお客様センターに代わりにやってもらっていた。ところが、コロナの影響で電話対応する人がいなくなってしまい困っている。
* コンビニやスーパーマーケットで、これまでは視覚障害者が単独で買い物に出かけても、店員が手伝ってくれていたが、最近は、本部から指示が出ているからと、サポートが拒否されるようになり、買い物ができず困っている。

　１－４　その他（１件）

* コロナの影響で対面朗読をしてもらえなくて困っている。

**２．あはき（ヘルスキーパーを含む）**

２－１　補助金・給付金等の対象者・申請方法について（２９件）

* あはき治療院は休業要請の対象になっていないので、休業しても協力金（休業補償）の対象にならない。一方で４月に入ってから、まだ一人もお客さんが来ていない。あはき自営業者への経済的支援をしてほしい。
* 治療院には休業要請がないがために、実際にはお客さんが来なくて休業状態でも、休業協力金などの給付が受けられない。エステなどは休業の対象なのに、あはきの治療院が対象にならないのはおかしい。
* 休業要請の対象業種から、あはき治療院は除外されている。一方で、無免許でマッサージをしているような整体やエステなどは対象になっている。三密が該当するあはき業をわざわざ対象から外す必要があるのだろうか。結果的に、あはき無資格者が優遇されていることを思うと、どうしてもしっくりしない。
* 持続化支援給付金の申請手続きをしたいが、どこにどのようにすればよいかわからない。
* 緊急事態宣言により大中小企業には給付金が頂けますが、私たちの個人業は対象外とされております。したがって自宅治療院の収入と障害年金で生活しているが、この３か月程度、来院する患者さんらも感染したらと不安で、来院していただけず大変です。
* 整体師、エステティシャン、ネイリストへ休業要請を出しているが、あはき業は、医業の分野であることから休業要請が出されていない。整体師という、いわば無免許のものが休業補償対象となっているのに、あはき業が対象でないことに疑問を感じる。
* ニュースで持続化給付金の送金が始まったと報道されていた。全盲であはき業をしているが、自力では申請できない。電子申請に不慣れ・困難な方に対して、感染症防止対策も講じた上で、予約制の申請支援（必要情報の入力等）を行う申請サポート会場を全国に順次設置する予定と書いているが本当なのだろうか。本人でなければ申請はできないと聞いているが、代理の名義で申請は可能なのか。もう少し簡単な手続き方法で視覚障害者でも申請できるようにしてほしい。
* あはき治療院を営んでいるがコロナウイルスのせいで患者が来なくて困っている。どのような支援金があり、どのように申請すればいいのか分からない。
* 持続化給付金について、自分を含め知り合いにあはき業者が何人かいるが、自分だけで申請できる人がいない。家族に手伝ってもらい、申請できた人もいるが、他の人は申請できなくて困っている。市役所に相談したら、サポートセンターに連絡するように言われたが、サポート会場が遠く、会場まで行くことが難しい。
* 持続化給付金について、電子申請を手助けする会場が設けられたが、同行援護も使うのが難しい中、視覚障害者はどのようにその場所へ行けば良いのか。それに、この持続化給付金の電子申請の作業も大変で、問い合わせをしようと、持続化給付金事業コールセンターへ何度か電話をかけたが、全く繋がらない。
* コロナで経営が大変。あはき業は給付金の対象外と聞いたがどうなのか。自分が対象になる給付金等がどれなのか分からない。
* 美容院などは休業業者に指定され、協力金を受給されたと聞いたが、あはきは何故対象にならないのか。市役所に問い合わせたら、医療に準ずるので対象外と言われたが、納得いかない。
* 治療院経営がとても苦しい状態にある自分のような個人事業者にも給付金が支給されると聞いた。どこに、どのように申請・手続きをすればよいか分からない。また、自分のような全盲でも手続きができるのか不安。
* 病院がマッサージ室だけを休みにしてしまい、給料が止まってしまった。雇用者自身が申請できる休業補償を教えてほしい。
* 持続化給付金申請の予約をした際、身分証明書が必要だと言われたが、障害者手帳は駄目だと言われた。どうすればよいか。
* ２０万円が支給されると聞いたが、本当か。今までは給付金など、申請せずに結構損をしてきた。今回は、仕事が減って本当に大変厳しいので、申請したい。
* 新型コロナ感染症のため治療院を休業した。休業に協力したので感染拡大防止協力金を申請しようとしたが、対象とならなかった。国家資格を持ったあはき業が対象にならず、無資格者が対象になるのは納得がいかない。
* コロナの影響で治療院を廃業した。転職したいが求人もなく、収入も途絶えてしまったので、支援金などがあったら教えてほしい。

２－２　患者からの依頼が激減して仕事にならない（２８件）

* 治療院の患者数が激減しています。「濃厚接触を避ける」という文言が通院を避けさせているのだと感じています。こちらとしても、マスクの装着や手指の消毒等の対策はとっているのですが、いかんともしがたいのが現状です。また、今まで来られていた患者さん自身も収入が減って来られなくなっているのも事実かと思います。
* 現在、患者から依頼を受けても、一切、鍼の施術をすることができません。また、その他施術所内の消毒もままならず、このままでは、来院される方に体調やどのような交通機関で来たかの確認をしたり、マッサージしか業務が行えないことを伝えなくてはなりません。そのため、患者の数が減っております。
* 自宅開業ながら、客足が止まった。企業の非正規のヘルスキーパーでもあるが、自宅待機を命じられている。客観的にはやむを得ない事情ではありますが、政府が検討している事業者補償に私達のような零細事業者や非正規職員にも必ず適用されるように願いたい。
* 治療院を営んでいるがお客さんの数が激減して困っている。
* 今年に入ってからほとんどお客さんが来ていない。１月２月は何とかなったが、４月に入ってからは全く来ていない。
* これまで市内であはきの治療院を経営し、顧客は月２０～３０人、いろいろな工夫を取り入れ、頑張っていた。ただ、コロナ問題が出てからお客さんが激減し、生活ができず困っています。
* 仕事の依頼が全くなく、収入が断たれ困っている。緊急事態宣言が終わった後も、お客さんが暫く来ないのではないかと心配。一度離れたお客さんを戻すことはなかなか難しい。
* 「ソーシャルディスタンスを保つように」、「濃厚接触を避けるように」等の報道が患者の激減につながっていると思う。このような時だからこそ、あはきがストレスの改善や健康の維持・増進に効果があることを発信してほしい。
* あはき治療院を開業しているが、密閉密接した仕事のため患者さんが全く来なくなってしまった。治療院の家賃と自宅の住宅ローンがあるので、経済的に困窮しています。また、緊急事態宣言が解除されても患者さんが戻ってきてくれるか不安です。
* コロナ感染拡大防止のため、２月から仕事を停止している。年間１２０万円、月平均１０万円の稼ぎではあるが、収入がなくなって困っている。
* コロナのせいで患者さんが来院してくれません。このままでは生活が立ち行かなくなりそう。
* 自宅開業と委託を受けての訪問マッサージを行っているがコロナのせいで仕事が減って生活できない。
* 治療院に勤めているが患者が来ないため給料を支払ってもらえず生活ができない。
* 治療院を営んでいるが、コロナでお客さんが激減している。お客さんに安心して来院してもらうため、視覚障害あはき師に対してＰＣＲ検査と抗体検査を行ってほしい。

２－３　マスク・消毒用アルコールが手に入らない（１５件）

* 鍼灸院を営んでいるが、消毒用アルコールが入荷されない。このままでは経営できなくなってしまう。
* 治療院を営んでいる方が、マスク・消毒用アルコール不足で困っています。市に相談したところ、「大きな施設・病院等で影響が大きいところには役所からマスク・消毒用アルコールの配布をしたが、全く行き渡っておらず役所もお手上げ状態だ」と言われた。もう半月もすれば在庫なしとなる治療院がある。
* 消毒用アルコールの入手が困難です。現在はまだストックがあるが、今の状態がいつまで続くのか心配。
* 晴眼者と違い、開店前から店の前に並んでマスクや消毒用アルコールを買うこともできないので、マスクや消毒用アルコールを少しずつでもいいので回していただきたいです。
* 最初から消毒用アルコールをしみこませてある綿花はインターネットにまだあるようですが、通常価格の４～５倍するため購入できない。
* 消毒用アルコールとマスクが一日でも早くお店に並んで手に入るようにしてほしい。
* 一般の方が必要以上に消毒用アルコールを求めていて困っています。
* 鍼灸院を経営しているが、消毒用アルコールが入手できない。薬局に入荷されないため大変困っている。
* 市内のドラッグストアや薬局を何軒回ってみても、マスクと消毒用アルコールが一切購入できない。
* 消毒用アルコールもマスクも買えず患者も来ない。ただ、現状で支払いだけは待ったなしで、大変困っている。

　２－４　ヘルスキーパーに関する問題（７件）

* 新型コロナウイルスの影響で、一般職員のテレワーク化が進み、職場に職員がいなくなってきている。このまま職員がいなくなるとヘルスキーパーとして会社に在中する必要性がなくなり、雇用してもらえるのかどうかが不安です。また、正社員から嘱託社員に身分変更がされるかもしれない。この点も不安です。
* ヘルスキーパーとして入社したが、コロナ騒ぎが出て以降、マッサージの仕事が接触業務ということで、暫定的にパソコン業務に配置転換された。慣れない仕事なので、不安でしかない。
* 緊急事態宣言が発令されたことで１カ月の自宅待機となってしまった。給料も減額するとのこと。これでは生活ができない。
* テレワークになじまない職種なので、このまま自宅待機が続くと、解雇の話が出てくるのではと心配。
* 新型コロナウイルス問題をきっかけに、テレワーク化の促進等、新しい働き方が進む中、視覚障害者の間ではヘルスキーパーの雇用に対する危機感が高まっている。しかし、この新型コロナウイルス問題を乗り越えた先の、新しい時代を担っていく従業員の健康の維持・増進のためにも、ヘルスキーパーの役割はますます重要になるのではないか。そのため、新しい時代に必要とされるヘルスキーパーとしての存在感を高めるために、今後は、ヘルスキーパーの資質向上が必要だと思う。国には、今のヘルスキーパーの雇用を守り、ヘルスキーパーを導入する企業を増やす試みの他に、資質向上をするための試み（例えば研修会の開催等）も後押ししてほしい。そして、働くヘルスキーパー自身も、治療の他に健康体操の紹介や社員から悩み相談を受ける等の努力が必要だ。
* 会社は自宅待機を９月頃まで続ける方針のようだ。休業によって基本給が減額され、副業は出来ず、さらには訓練やスキルアップも出来ず、ただただ自宅で過ごしているだけです。こういった状況が続いていくと、モチベーション低下から、自ら退職するヘルスキーパーが出てくるのではないか不安だ。
* 自宅待機が解除され、一日おきに出勤しているが、１週間経過しても、まだ一人も施術していない。このままではヘルスキーパーは不要となり、解雇されるのではないかと不安だ。

　２－５　訪問系の仕事ができない（５件）

* 訪問マッサージをしているが、出入り禁止の施設や患者宅があり、仕事が減っている。
* 訪問マッサージの仕事は休んでいて、年金８万円で生活している。
* 昨年１２月より、市内の特別養護老人ホームでマッサージ治療をしている。施設より「新型コロナウイルス感染予防のため、２月７日から３月３１日までは施設へ入場しないでほしい」と言われました。この２カ月近い間、１０万円収入がなくなり、公共料金を支払えない状態です。保険治療は、治療した月より３カ月か４カ月後に入金されるため、年金の支払いがない５月には収入がなくなります。老人ホームから治療の許可が出るまでの間、国から１０万円ほどの緊急の支給をしていただければと願うばかりです。私の治療室に来てくださる高齢者もコロナのことで遠慮して来られなくなりました。
* ホテルの委託を受けてマッサージを行い、月平均３万円程度の収入と障害年金で生活をしていましたが、ホテルが閉鎖となり３万円の収入がないため生活が行き詰ってきました。

**３．同行援護**

　３－１　同行援護が利用できない（１４件）

* マスクを着用していないと同行援護の利用ができない。
* コロナウイルスの関係でガイドヘルパーを派遣してもらえないケースが出てきています。
* 盲学校の学生が、一部の事業所から同行援護を断られる事例が相次いでいる様子。これは、通院等、命に係わる問題。
* 同行援護事業所が依頼を受けてくれません。精神疾患があり、薬がきれると症状が悪化する可能性があります。薬の処方量にも限界があり、月に１回は医療機関の受診が必要です。しかし、事業所から「延期するように」や「コロナが収まったら契約します」という返事しかいただけません。
* 同行援護を利用して外出する際、感染するリスクを冒してバスやタクシーへ乗車するのはかなり気に掛かります。そのため、事業所に、公共交通機関ではなく、有償、いわゆる車両を用いての外出を依頼したのですが、先方から、それはできないと拒否されました。これでは、日常の生活に関わる買い物をするのに、恐怖と隣り合わせで出掛けなくてはいけなくなります。
* 全盲のため、ガイドヘルパーに同行してもらって買い物をしていたが、ガイドヘルパーの中から感染者が出たため、事業所が閉鎖されてしまった。宅配サービスを利用しているが、この先のことを考えると、不安でいっぱいです。
* 同行援護のガイドヘルパーからコロナウイルス感染拡大を防ぐため、４月中は医療機関への受診以外、同行援護はできないと言われた。
* 同行援護と家事援助を利用している事業所に感染者が出てしまい、ここ２週間、同行援護の利用ができなくなってしまった。宅配の食事を食べているが味気ない。外出もできないので息が詰まりそうです。
* 同行援護の利用が困難になり、買い物ができず困っている。何とかして単独歩行で行けるところに入っても、お店にも人がいなく、結局買い物ができない。
* 一部の同行援護事業所が利用者の申込を断っているようで、困っている人がいる。
* 同行援護で買い物に行きたいが、事業所から「緊急事態宣言が出ているから、市から同行援護は休むようにと言われていて、依頼は受けられない」と言われてしまった。食料品などの生活必需品を買いに行けず困っている。
* コロナの影響で、同行援護事業所のヘルパーさんが３人しか稼働しておらず、事業所の電話対応も止まってしまい困っております。
* 同行援護事業所から、緊急事態宣言が解除されても、まだ余暇活動、散歩は認めないと言われている。必要な外出もできず困っている。

３－２　事業所の経営が成り立たない（７件）

* 外出の自粛要請が出ているため、いつも利用している同行援護事業所ではキャンセルが相次ぎ、このままでは経営破綻につながりかねない様子。国から補助金が出るのは、法人格の大きな施設であって、私たちが利用している小さな事業所には、補助金が出ていないと聞いた。今のところ同行援護を申し込めば応じてもらえる状況ではある。
* イベント、コンサート等相次ぐ中止により、同行援護の依頼が激減しています。このまま長期間にわたって依頼がなくなると、事業所としても運営が厳しくなると推察します。視覚障害者の外出支援の要である同行援護事業所が倒産すると、将来的に制度の運用もままならなくなると想像します。
* ガイドヘルパーの仕事がなくなり、生計の足しにされている方たちの収入補償が必要ではないか心配しています。今でもガイドヘルパー不足なのに、これを機にガイドヘルパーをやめてしまう人が増える等、更に人手不足になってしまうのではないかと心配しています。同行援護事業所の収入減等で事業継続が困難にならないようにしてほしい。
* 同行援護事業所の３月の売り上げはいつもの５割ぐらいしかなかった。このままでは経営の破綻が危惧される状況。視覚障害者の社会活動の自粛に関連して、通院、買い物以外の依頼はほとんどない。ガイドヘルパーからもしばらく職務を停止したいとの申し出がある。４月の催しはすべて中止、５月は縮小となった。生活訓練はマンツーマンのため、４月中は申込があっても断らざるを得ない状況です。
* ４月２８日付で厚労省が出した通知（同行援護で買い物代行）は、運用の仕方によっては事業所の経営が厳しくならないか心配だ。例えば、今までは買い物ついでに散歩も行っていた人は、だいたい３時間の同行援護を利用している。しかし、買い物代行だけでは１時間がせいいっぱい。そうすると、事業所にとっても、ヘルパーにとっても今までより収益は少ない。やるだけ赤字になると大変なので、更なる支援が必要ではないか。

３－３　補助金・給付金等の対象者・申請方法について（１件）

* 同行援護事業がコロナの影響で稼働しないため収益が悪化している。事業所を存続させるための支援策がないか教えてほしい。

**４．情報提供**

　４－１　補助金・給付金等の対象者・申請方法について（９件）

* コロナ問題でデイサービスでのマッサージの仕事もできなくなり、困っている。ニュースで出ている支援金は利用できるのか。詳しい情報が分からなくて困っています。
* 特別定額給付金の請求手続きに、自動車免許証の写し等が必要とニュースで聞いた。どのような手続きになるのか、詳しい情報が分からなくて不安です。
* 特別定額給付金の給付申請について、申請しなければ給付されませんが、高齢者・障害者等で自身だけで手続きをできない方も多いと思います。申請についての公的機関の支援や手続きの簡素化をしてほしい。
* 特別定額給付金申請書について、視覚障害者だけの世帯は、自治体からの申請書が届いたことが確認できない、自分では記入できないなど、困ることだらけです。

　４－２　新型コロナウイルスに関する情報提供の在り方（６件）

* 感染者数等のマスコミ発表に際しては、発生した「区市町村名」までを公表するように強く要望します。
* テレビでコロナ関係のニュースが流れても、字幕スーパーが読めないので困っている。
* 各自治体が、公共施設（図書館等）を急に休館にします。自治体は、ホームページを見てくれとの説明ですが、視覚障害者や高齢者でどれだけの方がホームページを読めるか。情報提供者側からの一方通行です。例えば、市内の掲示板に大きく掲示したり、駅に貼りだす等の工夫はできるはず。あるいは、視覚障害者団体に連絡して、会員に極力の電話連絡を依頼する。また、同行援護事業者にも伝え、機会があれば利用申し込み時に伝えてもらう。
* 感染者情報がわからない。当然のことながら、個人情報や人権への配慮から、ホームページを見ても詳しいことはわからない。また、地域で感染者がでたら、健常者には口コミで情報が伝わり、感染者が利用していたスーパーは行かないでおこう等の心づもりがそれなりにできるだろう。ただ、外出を自粛している私達にはその情報はつかめない。私は、会員に個人情報にも配慮しつつ連絡していますが、ここでも視覚障害者が情報弱者であることを思い知らされる。
* テレビや新聞等のニュースで、視覚障害者に関連した情報をもっと報道してほしい。
* 世間では、人と２メートル距離を取るようにと言っているが、視覚障害者がガイドヘルパーと歩くときは、肩や腕につかまって歩かなければならないこと、ひとりでは人との距離が分からないこと、点字表示を探すためにあちこち触らなければならないことを知ってほしい。
* 新生活様式について、ＣＭやテレビやラジオの情報番組で連日報道されていますが、一定の身体的距離を確保するソーシャルディスタンスは、視力を使えないので単独ではできません。新生活様式のスタンダードとしての趣旨は変えずに、特例という条件付きで、配慮する形の改定をしてほしい。新しい生活様式を守れない当事者は、行動も著しく制限されてしまうし、同行援護などの支援も、依頼し辛くなってしまう。

**５．医療機関等に対する不安**

　５－１　検査機関や医療機関への移動（５件）

* 自宅で開業しているかたわら、週１回隣町にある外科医院の院長先生から頼まれて、物療室でお手伝いをしています。高齢の院長先生は暇になると、物療室に来て、患者さんがトレーニングに励んでいるのに、大声で話しかけ、大声でよく笑います。問題は、コロナ問題が大きな社会問題になっているのに、マスクもしないで入って来ることです。万が一感染したらどうしようと思うと、はらはらしています。電話で愚痴を言っても仕方がないのですが、私は７１歳で、夫婦とも全盲なので、感染したらどうなるか、とても不安です。もしＰＣＲ検査を受ける必要があったら、その場所までどのようにして行けばいいのでしょうか。ガイドヘルパーは使えないので、移動手段がありません。救急車かパトカーで連れていってもらうしかないのかなどと、妻と話し合っている毎日です。
* 眼科医をしていますが、新型コロナウイルス感染症対策において、視覚障害者はどのように行動すればいいのでしょうか。私の周りには、まだ感染の疑いの生じた方はいませんが、とても不安を感じています。発熱等で感染したかなと思ったとき、帰国者・接触者相談窓口に電話したとして、結果的に帰国者・接触者外来受診を指示された場合、視覚障害者はどうやって行けば良いのでしょうか。特に一人暮らしの視覚障害者はどうなるのか、とても心配です。
* 一人暮らしの視覚障害者が、具合が悪くなり保健所に行きたい場合はどうしたらよいか。とてもじゃないが、一人では行けないので不安です。
* 夫婦ともに視覚障害者のため、コロナウイルスに感染した場合、公共交通機関も使えない情勢で、どのように対応したらよいか。
* 感染が疑われＰＣＲ検査を受けた。検査機関までかなり距離があったが、移動手段は自分で確保するよう言われたが、一緒に住む家族も免許がなく、タクシーも同行援護も使えません。帰国者接触者相談センターに電話して事情を話したが、主治医が予約を取る際に調整するものなので今回は事情を聞き取ることができないと言われ、離れて住んでいる息子に頼んで車を出してもらった。今回は陰性だったので良かったが、もしも陽性だったら息子も人との接触を避け検査を受けなければならないところだった。検査は、車に乗ったまま受け付け、駐車場所でしばらく待機した後電話で呼び出され、車を降りて検体を取られた。視覚障害者をはじめ、移動手段の確保が難しい方への対策は不十分と感じました。検査予約の際、運転のできない人の移動手段をきちんと調整する仕組みの強化を望みます。

　５－２　病院等での情報提供（３件）

* もしもコロナウイルスに感染してしまった場合、全盲の人は、感染症病棟に入院したり、軽症で医療機関に準ずる場所に隔離となったりすると、その場所でどのように過ごすことになるのか、関係機関やマスコミはテレビで放送していません。これでは、緊急事態に見舞われた場合、どのように対処すればいいのかが分かりません。その点についても、音声で分かる形等で、事情が分かると助かります。
* ニュースで、コロナの軽症者はホテルに隔離されると聞いた。もし、視覚障害者がホテルに隔離された場合、しっかりとしたフォローがあるのかどうかが心配だ。このような視覚障害者には、ホテル内で様々な情報提供、移動の支援が必要だと思う。

　５－３　持病の治療のための通院について（２件）

* コンタクトレンズが欲しいのですが、利用していた眼科はショッピングモール内のため、当面閉鎖している。患者や医療従事者のコロナ感染の可能性を配慮して、処方箋だけ頂きたかったが、連絡も取れない。別の眼科に相談してみますが、濃厚接触は避けたいです。
* 大学病院に通院しており、眼底検査の予約を入れております。また、家内は緑内障で、いろいろな検査を毎回受けております。先生や検査機器とも接触せざるを得ませんが、二人とも高齢者でコロナ感染が心配です。今は通院を遠慮し、処方箋のみの発行をお願いした方が安全なのか、素人ゆえ心配が一層深いです。

**６．その他**

　６－１　盲学校の寄宿舎　土日の受け入れ（３件）

* 盲学校の理療科に通っている。４月から授業が再開されると思うが、父が白血病で静養しているので、コロナウイルスの感染が心配で家に帰れない。寄宿舎は土日が休みになる。このような状況下なので、土日も宿泊できるよう県に要請したが断られてしまった。寄宿舎の土日利用を要請してもらいたい。
* 息子が盲学校の中等部に通っている。４月から授業が再開されると思うが、家で面倒をみきれないため、寄宿舎に土日も宿泊できるよう県に要請したが断られてしまった。寄宿舎の土日利用を要請してもらいたい。

６－２　障害者福祉施設の運営（１件）

* この度のコロナウイルスの感染予防のために、市の助成により運営する自立支援センターを３月１日から約３週間閉鎖しました。本来なら３月いっぱい閉じたいと思っていたのですが、３週間以上閉鎖すると令和２年度の助成額が減額になると言われ、３週間で開始することになりました。国では閉鎖に協力するようにと言いながら、市の担当者から減額のことを言われるのは納得できないです。